

水よし・人よし・国吉
～みんなで作る地域の学校～

富山県高岡市立国吉義務教育学校PTA
会長 山川 雄 亮

1. はじめに

(1) 地域および学区の紹介

高岡市は、富山県の北西部に位置しており、人口は約 16 万 5 千人です。富山市に次ぐ県内第二の都市で、県西部の中心地です。

古くから伝統工芸の高岡銅器に代表される鋳物の生産が盛んなことに加え、2022 年には勝興寺が、瑞龍寺に

次いで国宝に指定されるなど伝統と文化のまちとなっています。

学区は、高岡市の西部に位置し、西山丘陵と小矢部川に挟まれた緑豊かな里山・田園地帯であり、国吉りんごなどの生産地となっています。

(2) 学校紹介

国吉義務教育学校は、2020 年 4 月に、旧国吉小学校と旧国吉中学校が統合され、富山県内初の義務教育学校として開校し、児童・生徒約 200 名が在籍しています。

『豊かな心を持ち、創造性と実践力をもとに未来を切り拓く子供の育成～ふるさと国吉の人と自然を礎にそして未来へ～』を教育目標に、子供たちが様々な活動に積極的に取り組んでいます。

校舎はもともと隣接していた小学校と中学校を渡り廊下でつなぎ使用しています。



【校舎風景】

教育課程の区分は前期課程<1～6 年生>、後期課程<7 (中学 1 年)～9 年生 (中学 3 年)>となっています。児童生徒玄関は一つとなり、1 階に 1・2 年生、2 階に 5・6・7・8・9 年生、3 階に 3・4 年生の教室があります。5～9 年生までが同じフロアで学ぶことで互いに刺激し合える環境になっています。また、前期・後期課程それぞれの教員が乗り入れ授業 (社会、算数・数学、理科、音楽、英語など) を行っています。後期課程の教員が前期課程の授業を行うことで専門性の高い指導、9 年間の継続だった教育ができるとともに、後期課程への進級もスムーズに行なえ、中一ギャップの解消にもつながっています。

委員会活動は、4～6 年生、7～9 年生に分かれて行っているものと、4～9 年生が合同で行っているものがあります。前期課程単独で行っているものには 5・6 年生の児童会活動の目標でもある、協力して課題を解決

しようとする自主的・実践的な態度を育てることにつながります。前期と後期課程が合同で行うものは、後期課程生徒が下の学年に分かりやすく伝える工夫を学び、前期課程児童は後期課程生徒から色々な考え方を学ぶ機会となっています。

部活動は、希望者のみですが、週2回5・6年生が後期課程生徒と一緒に活動しています。

運動会はもともと隣接していたこともあり、30年以上前から一緒に行っていました。義務教育学校になってからは、合同競技を取り入れ、後期課程生徒が前期課程児童をサポートしながら、各種競技に取り組んでいます。



【5・6年生の部活動参加】

2. 学校開校までの流れ

新しい学校開校にあたり、学校開設準備委員会を立ち上げ、1年前から月に1回集まり開校に向けた準備を行ってきました。



【学校開設準備委員会】

メンバーは、高岡市教育委員会、地域自治会4名、同窓会3名、小・中学校校長、地域の保育園保護者2名、小中学校のPTAより各2名で構成されました。

委員会では校名・校章・校歌などの選定および教育課程の検討などを行いました。特に、校章と校歌については児童生徒の意見だけでなく、地域の方にも意見を公募しました。

校章は、地域の方からも多くの案が寄せられましたが、学校側で10点に絞ったのちに児童生徒の意見をもとに委員会にて選定を行い、最終的に在学生在が考えた案が採用されました。



【新しい校章】

校歌については、長年歌い継がれた小中学校それぞれの校歌が地域の方に愛されていたため、無くなる事に対して反対意見もありました。何度も話し合い、小中学校の校歌はスクールソングとして残し、入学式や卒業式の際に歌い継がれることとなり、新しい校歌も作成することでまとまりました。



【新しい校歌】

また、学校とPTAが中心となり体操服の選定を行いました。生地やデザインなどを話し合い、5つに絞ったのちに、児童生徒・保護者に投票してもらい、票の多かったものに決定しました。

PTAの統合については、学校開設2年前から話し合いを実施し、各種委員会の調整・設置を行ってきました。また、PTA会費や地域からの協力金も違っていたため、

地域の方も含めて話し合いの場を持ち、会費の調整を行いました。

さらに、統合前から運動会や学習発表会での活動を共同で行う中で、改善点を模索しながら体制を確立していきました。

3. P T A組織

本校のP T Aでは、執行部（会長 1 名・副会長 1 名・広報部 2 名・文化教養部 2 名・厚生保健部 2 名・PTA 協力隊 2 名・書記 2 名・会計 2 名）と各種委員会（広報・文化教養・厚生保健：各学年それぞれ 1 名）、地区委員（各地区 1 名）で構成されています。今年のP T Aスローガンは『共に学び、共に成長～みんなで今を楽しもう～』です。

〔広報委員会〕

- ・ 広報誌（西山）の編集・発行

〔文化教養委員会〕

- ・ 研修会の企画・開催
- ・ インクカートリッジ（バルマーク）回収

〔厚生保健委員会〕

- ・ 児童生徒会との挨拶運動の共同開催
- ・ 運動会の開催協力
- ・ 救命講習会の企画・開催

〔地区委員〕

- ・ 各地区世帯への広報誌配布
- ・ 地域清掃の企画・開催
- ・ 資源回収

P T Aを新設するにあたり、『P T A協力隊』を新しく作りました。P T A協力隊を設置した目的は、各委員会活動にとられない自由な企画の開催・運営、会員同士の親睦交流です。コロナ禍で思うように活動ができない状況でしたが、その中でも出来る活動はないかと模索してきました。その中で児童生徒会から出た『自転車小屋のさびが気になる』との意見をもとに、児童

生徒と一緒に自転車小屋のペンキ塗りを行いました。

また、学習発表会では保護者や地域の方がなかなか学校に来れず、バザー等ができない状態の中で、少しでも子供たちを楽しめる活動を企画したいと、昨年度は『思い出写真館』を行いました。



【自転車小屋ペンキ塗り活動】



【思い出写真館】

4. コロナ禍での課題

コロナ禍でも様々なP T A活動を行ってきましたが、地域の方と話す際に『なーん子供たち分からなくなった』との意見が聞かれました。私自身も共感でき、地域のつながりが弱くなっていると感じている中での意見でした。地域での祭りなどの中止・縮小や、マスクをつけての生活、運動会や学習発表会などでの地域の方の来校機会の減少などが影響していると考えられました。

P T A活動でも、今まで地域の方に協力していただき一緒に行っていた『グラウンド清掃』や、登下校時に見守っていただい

ている安全パトロール隊『感謝の集い』、地域の方も含めた『歓送迎会』などが、コロナが広がって以降3年間は中止となっており、地域とのつながりがかなり乏しくなっていると感じていました。

5. 新しい活動展開へ

そこで、令和5年度は地域の方と一緒に学べる機会を作れないかと考え、地域の方を講師に招き、自分の地域の事を知る活動『親子で楽しく学ぼう地域の防災：国吉の災害に備えて』を行いました。地域に住んでいる防災士の方に、自分の住んでいる地域の防災マップの実際の見方を教わり、さらに〇×クイズで防災について学びました。また、学校にある防災備品の見学や防災テント・段ボールベッドの設置体験をし、親子で一緒に学びました。



【親子で楽しく学ぼう地域の防災】

学校に準備されていない防災備品もあったため、参加者が必要だと思われる備品を、講師をしていただいた防災士の方へお伝えしたところ、防災士の方からも今後の活動に役立てたいとの返事をもらいました。ま

た、アンケートからは、『親子で話を聞いて良かった』『地域の高齢者に教えたい』『体験できる研修だと子供たちも興味を持ちやすい』などの意見が出て、自分の住んでいる地域の事を知ることができた機会となりました。

6. まとめ

富山県内初の義務教育学校開設という貴重な経験を経て、改めて地域の方の学校への思いを知る機会となりました。地域には小学校1校・中学校1校だったため、それぞれの学校の卒業生が多くいます。『知っている学校がなくなるのではないか』『校歌がなくなるのではないか』と寂しい思いや心配した方も数多くおられました。それらの思いを聞いたことで、それぞれに学校に対しての強い思いがあり、学校をさらにより良いものにするために、『みんなで学校を作っている』と強く感じる事が出来ました。

また、コロナ禍で、様々な活動が停止し、私たちもどうしてよいか分からないまま模索していました。地域との関りも減っていたと思います。そんな中で地域の方から、自分の住んでいる地域の事を聞くことで、子供も保護者も学校の先生方も、一つの地域の中で共に成長し学んでいると改めて感じる機会になったと思います。今回の活動は、アフターコロナの中から始まる第一歩になったのではないかと思います。今後は、今まで以上に地域の方と、共に学んでいける活動に取り組んでいけたらと思います。

子供たちが健やかにのびのびと成長できるように、子供たちと共に、また教職員や地域の方と一緒に学校をサポートできるPTA活動を、今後も『今を楽しみながら』そして『新しいアイデアを自由に語り合いながら』柔軟な活動を行っていきたいと思います。